

2019年2学期終業式式辞

アンサンブヒーロー

2019.12.24

2学期が終わり、冬季休業中に2020年がやってきます。新しい年の初めに向け、三木北高校生には、ヒーローになってもらいたいと思い、「ヒーローとは何か」について、お話をします。

まず、みなさんにとってヒーローとは誰で、それはなぜかについて考えてみてください。一人ひとり違ったヒーロー像があるのではないのでしょうか。スーパーマンだったり、ドクターXの大門美智子だったり、野球選手のイチローだったりいろいろです。では、ヒーローに共通するものは何でしょう。

1つ目は「危機に臨んで、平気な顔ができる」ことです。ルパン3世は銃を突きつけられても両手をポケットに入れたまま「へへっ」と笑います。ヒーローである野球部のピッチャーは大事な試合、仲間のエラーで満塁の危機を迎えてしまっても、平気な顔をしてみんなにドンマイと声をかけます。危機的な状況で、パニックになったり、感情が高ぶって視野が狭くなったりすると、よけいに状況は悪くなります。危機が迫ったとき、心を平静に保ち、広い視野を持ち続けられる者がヒーローです。

2つ目は「見返りを求めない」です。スパイダーマンはビルから落ちる人を助けたとき、「お礼に10万円いただきます」とは言わない。ヒーローであるサッカー部員は、3年間補欠で試合に出られなかったけれど、毎日練習に参加して、ボールを磨いて、グラウンドを整備して、後輩を指導し、チームに貢献しました。どこからともなく現れて、「名乗るほどの者じゃありません」と、どこへともなく去って行く。誰かに認めてもらいたくて、やっているのではない。それがヒーローです。

3つ目は「どうにもならないと思われる悪い状況を好転させる」です。ウルトラマンは怪獣が現れて人々が危機に瀕した時に登場し、怪獣をやっつけます。ヒーローであるバスケットボール部員は、相手チームの身長が高く、ゾーンディフェンスが堅くて、どう攻撃すればいいかわからなくなっている時、外からの3ポイントシュートを連続で決めてチームを生き返らせました。ヒーローとは、抗しきれない力に打ちひしがれた人々に、希望の光を見せる者です。

4つめ目は「敗れてもまた立ち上がる」です。ワンピースのルフィはやられてもやられても立ち上がります。ヒーローである音楽部員は、チームで何度も意見が対立したり、音が合わなかったりメンバーがやめたりしましたが、諦めずにチームをまとめて練習し、コンサートを成功させました。ヒーローとは、信念を持って何度も困難に立ち向かう者です。

部活動の例を挙げましたが、みなさんも時々ヒーローになっていますね。水害の起こった町に後片付けのボランティアに行った人、道に迷っている人に行き方を教えてあげた人、電車やバスで席を譲った人もいると思います。

そんな人たちを、英語でアンサンブヒーロー (unsung hero) ほめたたえられない英雄 詩歌に歌われない英雄といいます。例えば外国ではギリシアの詩人ホメロスが「イリアス」「オデッセイア」で英雄アキレウスやオデッセウスを歌っていますし、ドイツの「ニーベルンゲンの歌」は英雄ジークフリートを歌っています。このように英雄達の活躍は、歌にして褒め称えられ、後世に残されます。しかし、そんな風に詩歌に歌われない、名もない縁の下の方力持ちのことをアンサンブヒーローと言うのです。

この褒め称えられない英雄達が世の中を支え、よくしているのだと思います。ヒーローは得をするより損をする方が多いでしょう。賞賛や感謝すら得られないときもあるでしょう。でも、カッコいい。

カッコいいとは、他人のためにするやせがまんのことだと思います。

人と環境の三木北高生は全員、カッコいいヒーローになって、よりよい世界を作っていってほしいと思います。そうして、三木北高校が、地域の方々や小中学生から憧れられる高校になってほしいと思います。